

## Ⅹ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

### <主要施策の取組状況>

#### 1 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

##### ①自然再生プロジェクトの推進

- 平成 21 年度に県とサントリーホールディングス株式会社が締結した協定に基づき、丹沢大山自然再生委員会（以下、「再生委員会」）の承認を得て、丹沢県有林で実施しているサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクトの活動に対して、自然環境保全センターが技術・情報提供などの協力を行った。
- 自然再生プロジェクトでは、「溪畔林整備の手引き(平成 29 年 3 月)」を活用した溪畔林整備〔群状伐採 (0.067ha)、植生保護柵の設置 (160m)・延長 (300m) 等〕を施工した。
- 過去に森林整備をした場所の植生調査を行った。植生保護柵を設置した地点では、イヌシデやケヤキ等の高木性樹種の実生が確認され、将来的に後継樹の成長が期待できる結果となった。また、植生保護柵内には様々な草木も生育しているため、競合種による苗木や高木性樹種の実生・幼木への被圧を防ぐ、草刈りの管理が必要になる可能性が出てきた。今後も森林整備と並行し、継続して植生調査を実施する。



サントリー天然水の森 自然再生プロジェクト  
(清川村)

##### ②重点 団体等との協働による自然再生の取組の推進

- 例年、丹沢大山の自然再生の取組の普及啓発を図るため、自然環境保全センターは自然再生委員会の事務局として、イベントの出展を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、各種イベントは中止となった。

#### ○主な普及啓発活動

活動名称	開催日・場所	内容	来場者数
コリドー(緑の回廊)(植樹)	春: 中止 秋: R2. 10. 24 菩提峠(秦野市)	多様な生命を育む森林の再生を図るため、市民ボランティアの力で丹沢の自然環境保全を推進する	160 名
第64回秦野丹沢まつり	中止	-	-
丹沢フォーラム	中止	-	-
地球環境イベントかみかきエコ10フェスタ2020	中止	-	-
森林探訪 「大山阿夫利神社・下社」～初秋の静かな裏参道から大山阿夫利神社下社を歩こう～	R2. 12. 5 大山寺(伊勢原市)	大山の林道で楽しむ丹沢の彩り	10 名

○主な普及啓発活動（続き）

ワールドフェスタ・ヨコハマ2020	中止	-	-
丹沢大山自然再生活動報告会	中止	-	-

③ **FS** 学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

- ・ 自然環境保全センターは、環境学習活動を通じた自然再生の担い手づくりを推進するため、NPO 法人丹沢自然保護協会主催の「森の学校」に再生委員会を通じて協力した。自然体験や調査活動等により、小中学生を対象に自然体験や調査等を通して自然の仕組みについて知ってもらうとともに、自然再生の取組について普及啓発を図った。また、例年、森林環境教育にも協力をしているが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となった。
- ・ 令和元年度より、「高校生と取り組むレンジャー（巡視）体験」を県立高校体育連盟と再生委員会が連携して開催している。県内の登山専門部に所属する高校生を対象に、県職員が自然公園や自然再生の取組に関する説明やクイズを行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止となった。

○環境学習の推進活動

活動名称	開催日・場所	内容	来場者数
森の学校	夏：R2. 8. 14～16 冬：新型コロナウイルスにより中止 春：R3. 3. 29～31 (東丹沢)	子ども達が自然の中で生活し、野生動物の生態や役割を学ぶことで自然の仕組みを知り、また動物や植物の生活史を通して、人間と丹沢の自然環境の関わりを学んだ。	夏：36名 冬：- 春：24名
森林環境教育	中止	-	-
高校生と取り組むレンジャー(巡視)体験	中止	-	-

2 県民協働の枠組みを通じた連携

① **重点** 丹沢大山クリーンピア 21※1、丹沢の緑を育む集い※2、丹沢大山ボランティアネットワーク等による連携・協力

- ・ 丹沢大山国定公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図るとともに、「ゴミの持ち帰り運動」を推進するため、丹沢大山クリーンピア 21※1によるクリーンキャンペーン [参加団体：40 団体、参加者：1,015 人、収集量：1,575kg] や構成員であるボランティア会員（団体）による清掃活動 [参加団体：5 団体、参加者：171 人、収集量：182kg] を支援した。
- ・ 丹沢の緑を育む集いにより、植樹（菩提峠周辺） [参加者数：160 人] を行った。

- ※ 1 丹沢大山クリーンピア21 丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミの持ち帰り運動を推進することを目的として、企業・各種団体及び行政機関等の協力のもと設立された。
- 2 丹沢の緑を育む集い 丹沢大山地域で植樹事業やウラジロモミ等をシカの影響から守るための防護ネット設置事業などをボランティアとの協働で行っている各種団体及び行政機関で構成されている。

### 3 協働・普及啓発の拠点の活用

#### ①神奈川県自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

- ・ クラフト教室、自然発見クラブ、他機関からの依頼による自然保護や緑化等の研修会等は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。
- ・ フィールドスタッフ（自然保護と自然体験の指導者）として活躍する人材を育てる養成講座、自然環境保全センターの展示室・野外施設を活用した県民向けの観察会は新型コロナウイルスの影響で中止となった。
- ・ 本館2階で自然再生に関するパネル等を展示する「企画展」を開催し、丹沢地域の自然や歴史、文化等に関する普及啓発を図った。〔自然環境保全センター利用者数：15,008人〕

○本館2階で開催した企画展

開催期間	テーマ
R2. 8. 1～8. 30	丹沢の緑を育んだ20年 県民ボランティアと共に ～緑を育む集い 実行委員会の歩み～
R2. 9. 15～11. 3	生物多様性 －『今、私たちにできること』100年先でも、問い続ける－
R2. 12. 4～12. 23	野生動物救護の会 活動紹介
R2. 12. 26～2. 28	令和2年度緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール 受賞作品展

- ・ 子供にも分かり易く伝わるようイラストを用いて、丹沢大山自然再生の取組を時系列に並べた「丹沢再生絵巻」を昨年度より引き続き、本館1階に展示している。また、この展示について解説したリーフレットを作成し、自然環境保全センターホームページへの掲載や展示室に配架するなど、多くの県民に丹沢大山自然再生の歴史や取組、課題に関する普及啓発を図った。



特集棚（本館図書室）

- ・ 本館図書室では、丹沢資料保存会から寄贈された図書やジオラマを活用し、定期的特集を組むなど、丹沢大山の取組や歴史をパネル等で紹介した。

○丹沢資料保存会から寄贈された図書を活用した特集棚

開催期間	テーマ
R1. 11. 1～R2. 8. 13	山岳書を読もう
R2. 8. 14～R3. 1. 25	武田久吉が見た丹沢（前編）
R3. 1. 26～	武田久吉が見た丹沢（後編）

## ②神奈川県立ビジターセンターの自然再生活動への活用（Ⅷ-2-②）

- ・ 自然環境保全センターで実施した企画展の一部を、ビジターセンターで巡回展示 [実施数：1回] した。

○ビジターセンターと連携して開催した巡回展示

場所	開催期間	内容
秦野ビジターセンター (秦野市堀山下)	R2. 12. 12～R3. 2. 14	二ホンジカのこと、もっと知ってください

- ・ 丹沢で活動する様々な市民団体、NPO 団体の活動拠点として、各団体が収集した情報を展示などにより来館者へ提供した。

## 4 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

### ① 自然再生情報の提供と丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)の活用

- ・ 丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)を活用し、自然再生プロジェクトの活動レポート、展示物、企画展及び巡回展示の案内を掲載するなど、自然再生の取組状況について最新の情報を提供するとともに、自然再生に関する普及啓発を促進した。



Twitterアカウント

- ・ 情報発信を強化するため、新たな情報発信ツールとして自然環境保全センター独自のTwitterアカウントを取得した。自然環境保全センターの野外施設や、丹沢を中心とした山の情報を中心に、自然再生の取組を幅広く周知した。令和2年度末時点でツイート数は321、フォロワー数は1,061だった。

○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

